

コルチゾール

研究検査

2020年10月現在

検査概要

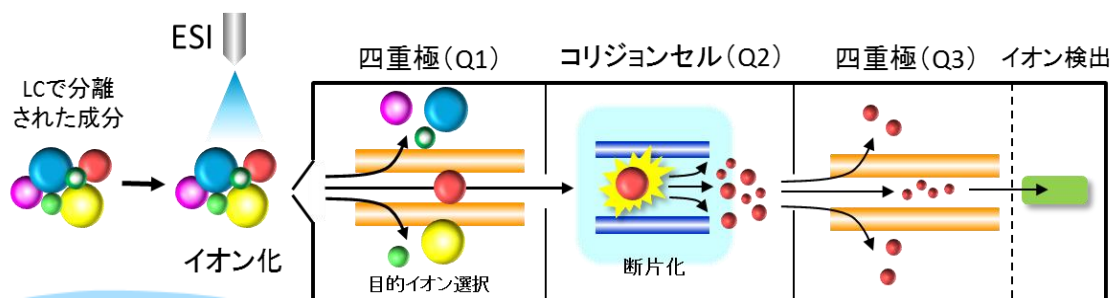
検査法	質量分析（LC-MS/MS）
検査項目	コルチゾール
材料	血清または唾液
必要量	500 μ L
保存方法	血清：採血後、ただちに遠心分離し、上清をマイクロチューブに移した後、 -80°C にて保存 唾液：口を濯ぎ、スワブで採取後、ただちに遠心分離し、上清をマイクロチューブに移した後、 -80°C にて保存
定量範囲	100 ～ 10000 pg/mL
最低出検数	30 検体以上
納期	検体受領後4週間以内

使用機器について

当社では、トリプルQ型質量分析装置を用いたMRM (Multiple. Reaction Monitoring) による定量分析を行っています。

Q1で目的のプレカーサイオンを選択し、続くコリジョンセルで不活性化ガスと衝突させ断片化します。さらにQ3でプロダクトイオンを選択することにより、高選択性・高感度の定量分析が可能になります。

検査装置：島津製作所製
トリプルQ型質量分析装置
8050



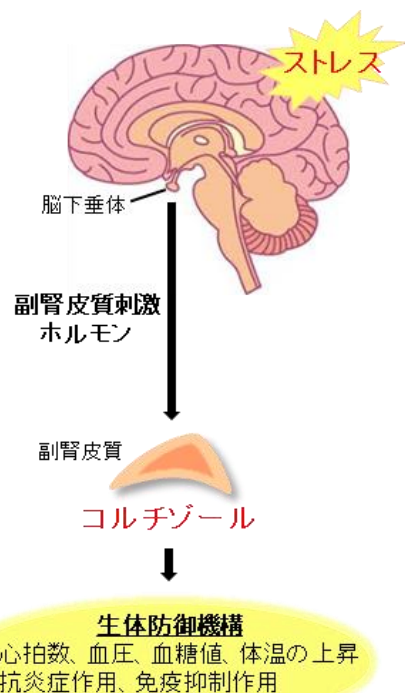
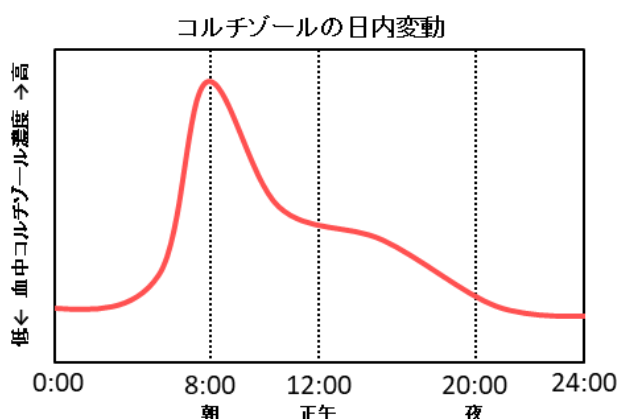
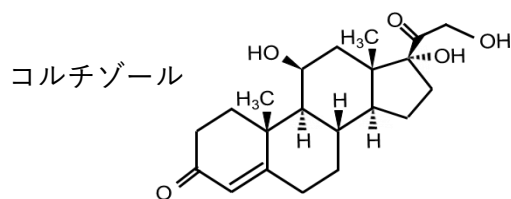
コルチゾールについて

臨床的意義（測定意義）

コルチゾールは糖質コルチコイドの一種であり、糖代謝、タンパク質代謝、脂質代謝の促進や抗炎症、免疫抑制に関与する生体に必須のホルモンです。

コルチゾールの分泌は、朝が一番高く、夜に低くなる日内変動を示します。さらに、ストレスに反応して分泌量が増加します。

ストレスを受けると脳下垂体から副腎皮質刺激ホルモンが分泌され、副腎皮質からコルチゾールが放出された結果、生体防御機構が働きます。コルチゾールは「ストレスホルモン」とも呼ばれ、ストレス評価のバイオマーカーとして利用されています。



コルチゾール検査 バリデーション結果

項 目	評価方法	結 果
日内再現性	N = 5 の C V 値	C V < 1 5 %
真 度	真値からの乖離	R E < 1 5 %
検量線直線性	検量線からの乖離	R > 0 . 9 9 R E < 1 5 %
添加回収率	回収率	R E < 3 0 %

お問い合わせ



KPSL
九州プロサーチLLP

〒819-0388

福岡県福岡市西区九大新町4-1
九州プロサーチ有限責任事業組合
<https://kpsl.jp/>